

# 2025年2月期 第2四半期業績説明資料

2024年3月～2024年8月

株式会社メタリアル 東証グロース：6182



2024年10月15日

# 目次

01 第2四半期決算サマリー

02 成長戦略 **全体**

03 成長戦略 **AI事業**

04 専門文書におけるAI化

**ラクヤクAI**

**四季報AI**

**ELLA**

05 長期成長戦略 **メタバース**

06 AI × メタバース **ワールドの生成から体験まで**

07 2025年2月期 業績予想



## AI事業の売上が 5四半期連続で過去最高

- AI事業の売上は昨年の2Qから5四半期連続で過去最高を記録。
- 今後ますます成長加速。

## AI事業の今期売上成長は 後半になるほど可視化

- AI事業の売上の伸びは3Q/4Qと後半になるほど明確に数値として見える見込み。
- 昨年は2Qが一時的要因で突出していたから2Qの対前年比は特に低く見える。
- 前期では痛みを伴う改革をしてきた（組織の抜本改革・マーケティング方針の転換等）。その成果はこれから出るが、利益から売上重視への体制シフトが遅れぎみのため、期首計画より売上を下方、利益を上方に修正。

## HT事業が低調。縮小し AI事業へのシフトを推進

- 現在連結前年比はHT事業の売上・利益の低調が最も強い引き下げ要因。
- 事業ポートフォリオとしてHT事業はキャッシュカウからドッグへと移行中。
- HT事業は縮小し、AI事業へのシフトを推し進める。

# 2025年2月期 第2四半期 連結損益計算書



	2024年2月期第2四半期	2025年2月期第2四半期	前年同期比
売上高	2,112	2,124	↑ 100.6%
売上原価	658	655	99.6%
売上総利益	1,453	1,468	101.1%
販売費及び一般管理費	1,062	1,177	110.8%
営業利益	390	291	74.6%
経常損益	419	282	67.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	232	198	85.4%

(単位：百万円)

# 2025年2月期 第2四半期 販管費 前年同期比較



	2024年2月期第2四半期	2025年2月期第2四半期	前年同期比
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>1,062</b>	<b>1,177</b>	<b>110.8%</b>
採用・人件費	579	624	107.7%
広告費	72	106	148.2%
支払手数料	68	66	↓ 97.6%
販売手数料	56	51	↓ 91.1%
ネットワーク費	74	68	↓ 92.3%
研究開発費	73	95	130.6%
業務委託料	87	116	133.2%
その他	52	48	↓ 92.3%

(単位：百万円)

# 2025年2月期 第2四半期 AI事業 前年同期比較



	2024年2月期第2四半期	2025年2月期第2四半期	前年同期比
売上高	1,554	1,661	↑106.9%
営業利益	487	451	92.6%

受注・売上は、3Q～4Qにかけて、より明確に数値として表れる見込み。特に後半にかけて案件の積み上げが進み、顧客からの需要の増加や新規プロジェクトの展開が期待されていることから、業績の伸びが顕在化する見通し。

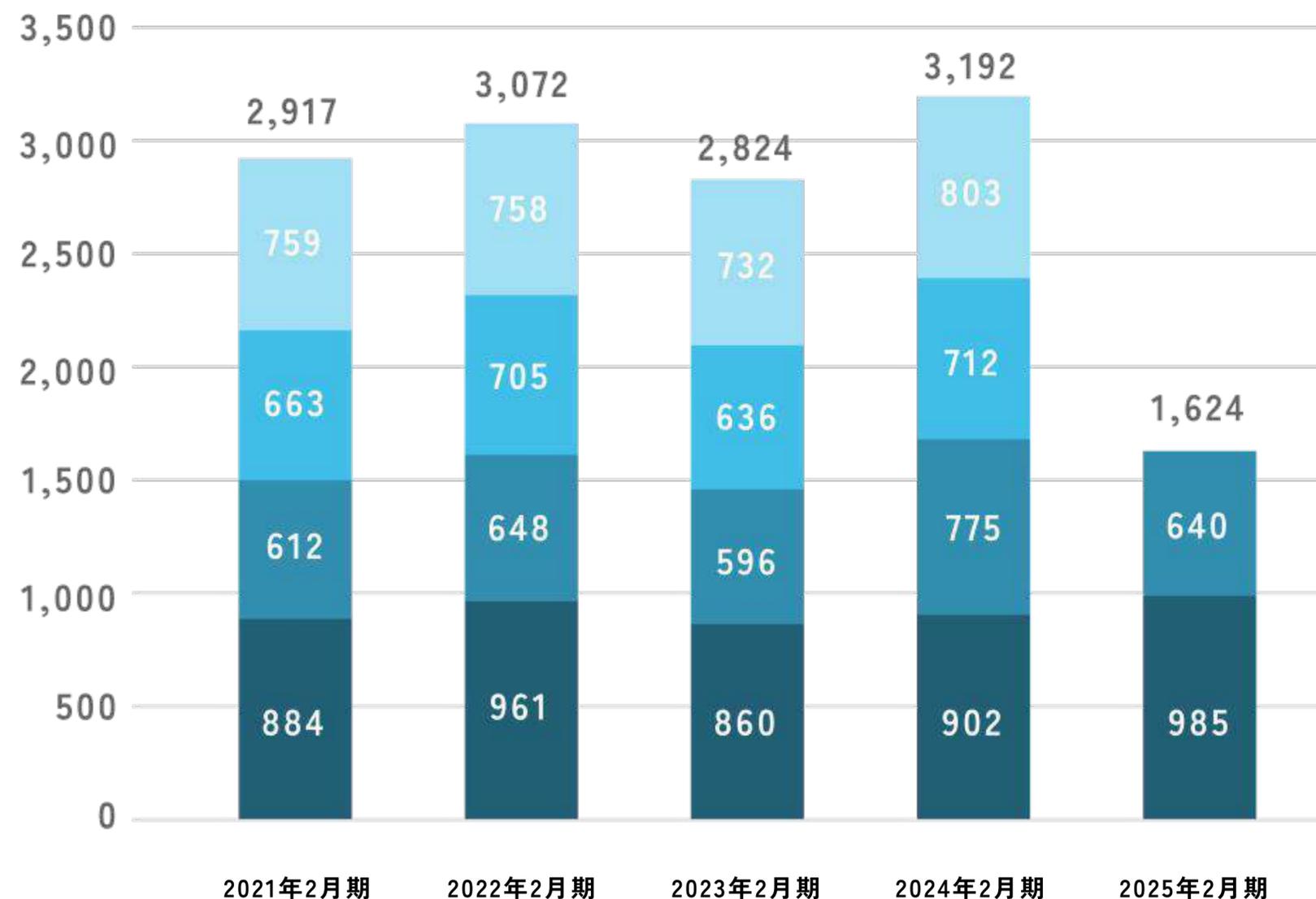
昨年度の2Qは単発大型案件により売上が一時的に大きく増加したため、今年度の2Qは対前年比で低く見えるが、一過性の要因であり、現状のビジネス基調を適切に反映しているものではない。

1Q～2Qでは、組織の抜本的な改革やマーケティング方針の大幅な転換を図り、企業体質の改善や効率的な運営体制の構築を進めてきた。これらの施策は、短期的には一部の事業に負担を強いる結果となったが、中長期的には持続的な成長の基盤を構築するために必要な取り組みであった。改革の成果は、後半になるほど業績に反映され、業績向上に寄与する。

今期見込みは、利益から売上重視への体制シフトが遅れぎみのため、期首計画より売上を下方、利益を上方に修正。

(単位：百万円)

# AI事業受注高推移



■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q

- ・ 受注ベースでの売上推移（財務諸表上の売上ではない）。
- ・ 外部への販売数値のみ（グループ内部取引による売上を除く）。

（単位：百万円）

# AI事業売上高推移

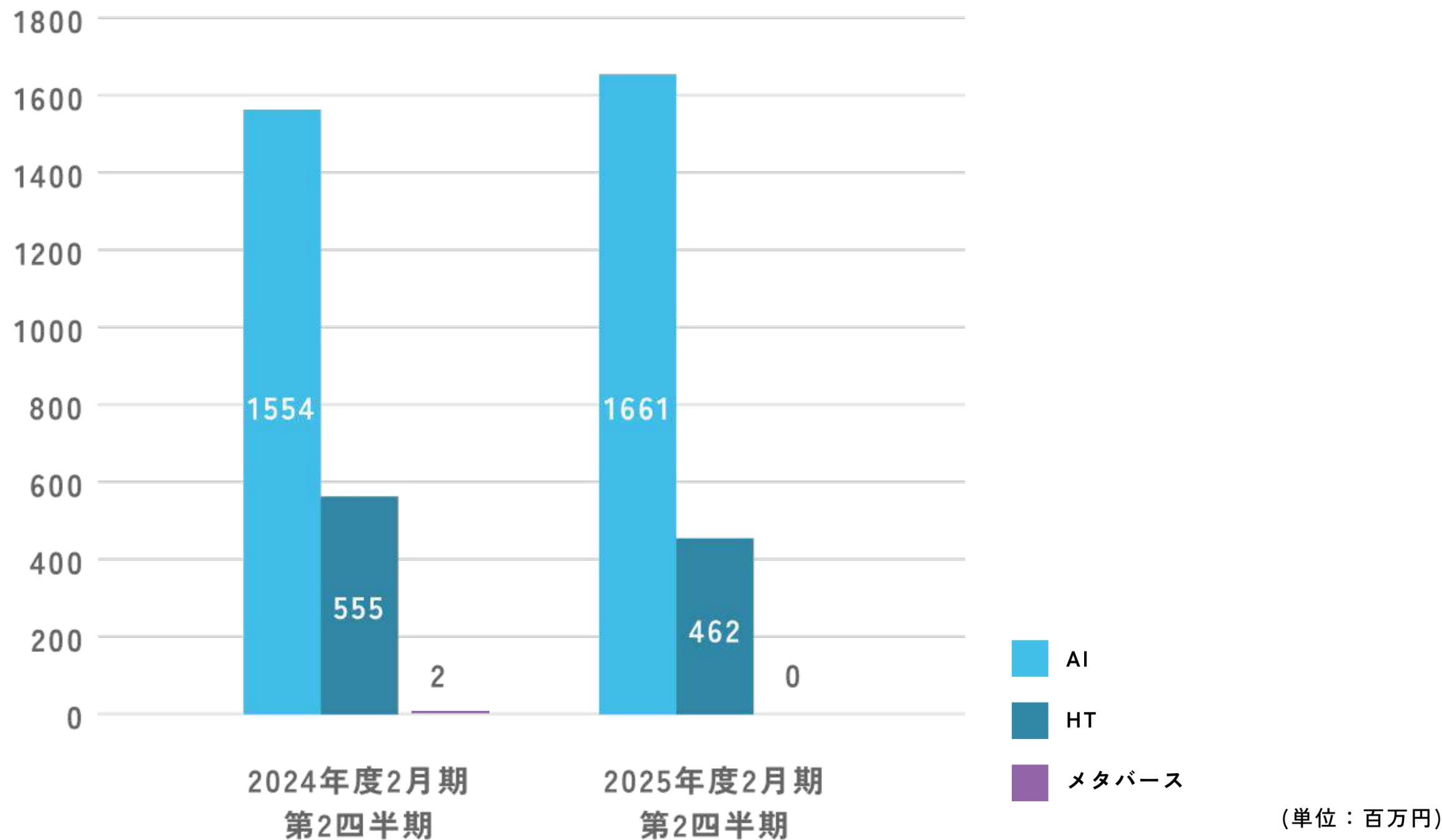


■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q

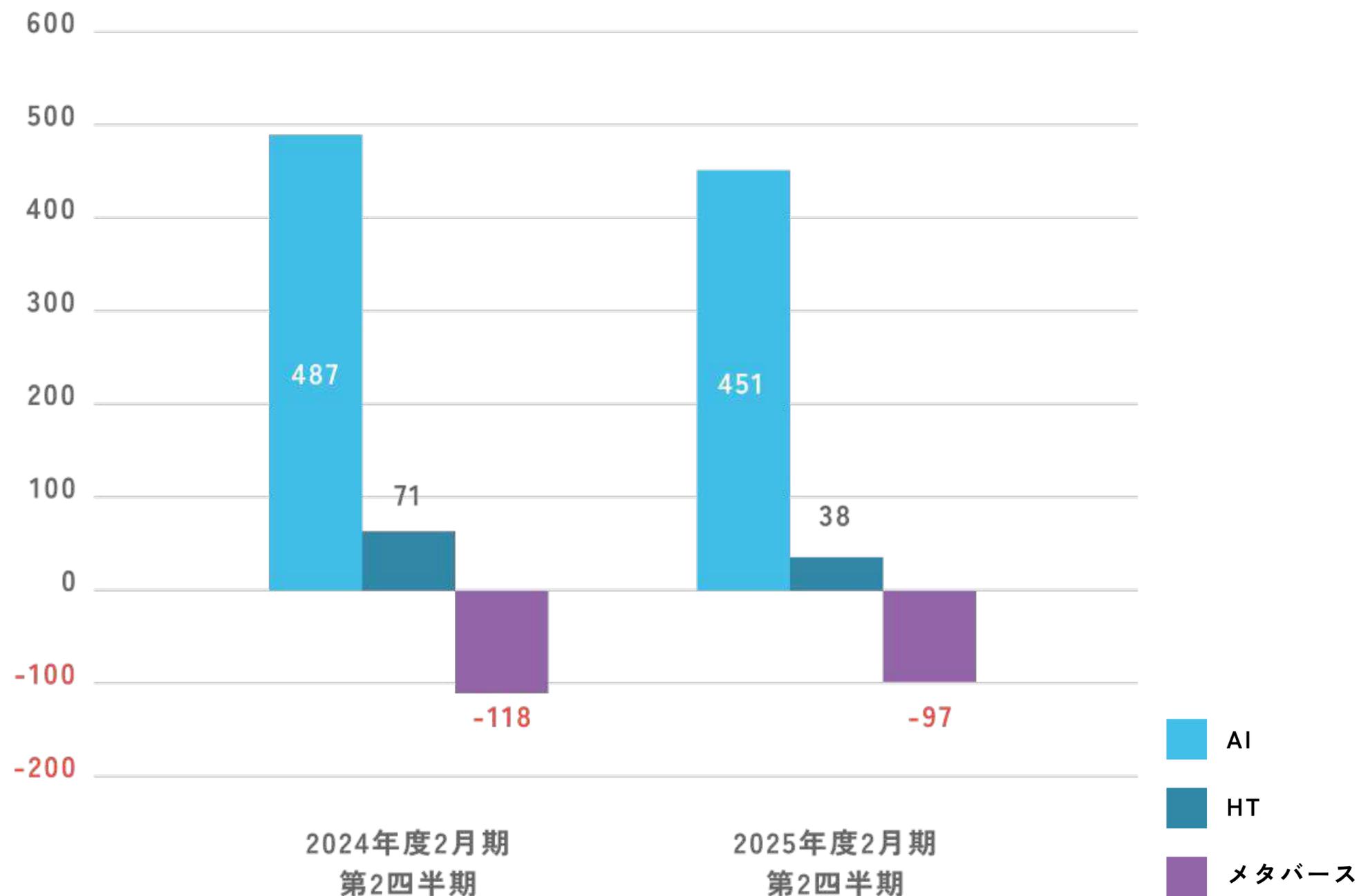
・ 外部への販売数値のみ（グループ内部取引による売上を除く）。

（単位：百万円）

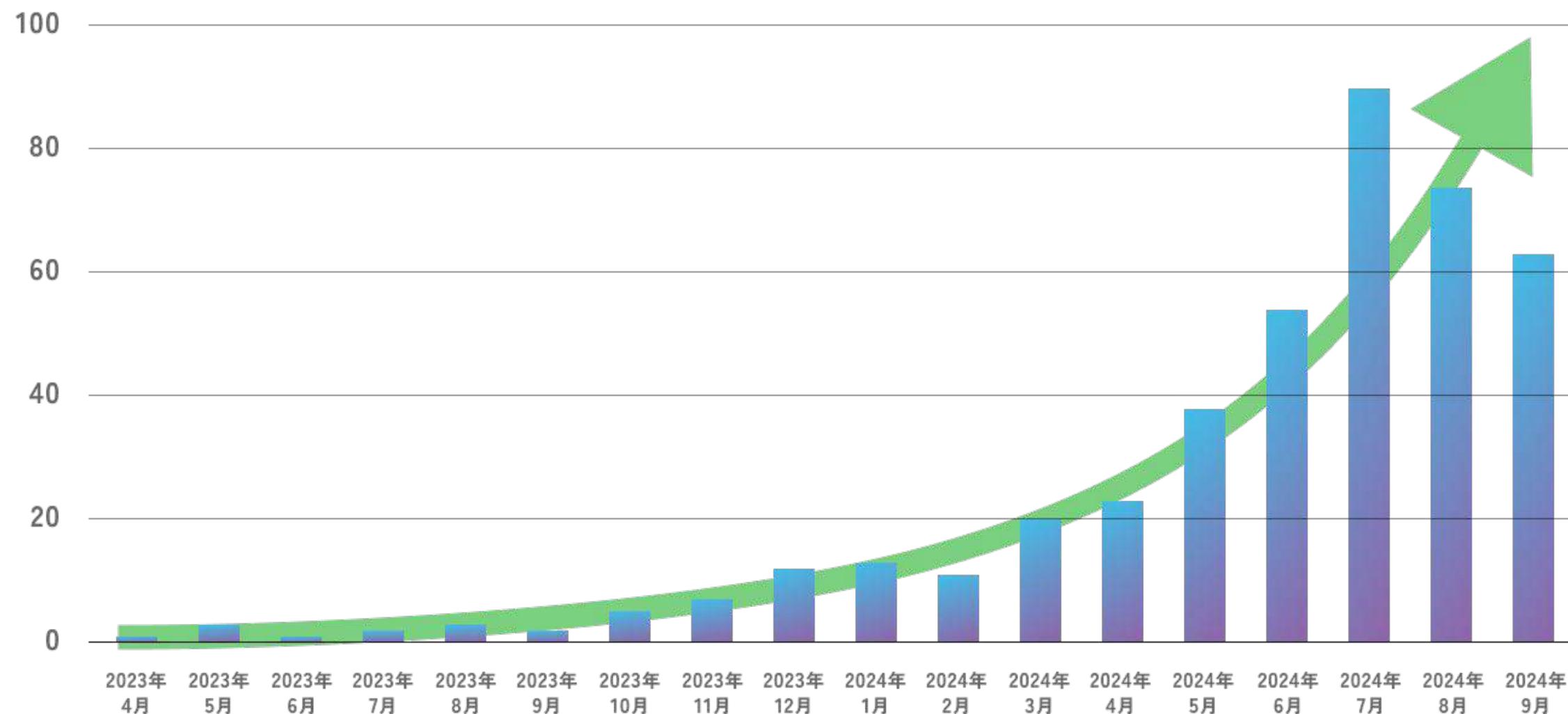
# セグメント別売上高 前年同期比較



# セグメント別営業利益 前年同期比較



(単位：百万円)



\*傾向としては順調に増加しており、7月から9月に向けて減っているように見えるのは単なる展示会の開催時期の問題。

### \*Metareal AI新規有効商談とは

- ・ 受託開発に限定したもの
- ・ 文書生成AIを主としたMetareal AIに限定した新規商談であり、AI自動翻訳の商談は含まない
- ・ 明確な開発需要が認められる商談のみを対象とし、調査や漠然とした相談等の商談は含まない
- ・ 前期有効商談件数62件、受注件数11件、受注金額アベレージ1,809万円



# 目次

01 第2四半期決算サマリー

02 成長戦略 **全体**

03 成長戦略 **AI事業**

04 専門文書におけるAI化

ラクヤクAI

四季報AI

ELLA

05 長期成長戦略 **メタバース**

06 AI × メタバース **ワールドの生成から体験まで**

07 2025年2月期 業績予想



# 3年後に売上100億円を目指す



## 中期

AI事業は昨年様々な試行錯誤を重ねた結果、勝算（需要が確実にあり、かつ当社に優位性がある領域）が確定できた。当社のMT事業（AI翻訳）での特長である「業界特化の専門分野文書への領域絞り込み」を生成AIでも行うという方向である。AI事業での成長に確信が持てたことから、今期の経営方針は利益最大化から成長加速に優先を切り替え、AI事業の売上拡大のための思い切った先行投資を行い、3年後（2027年2月期）の連結売上100億円を目指す。（\*1）

## 長期

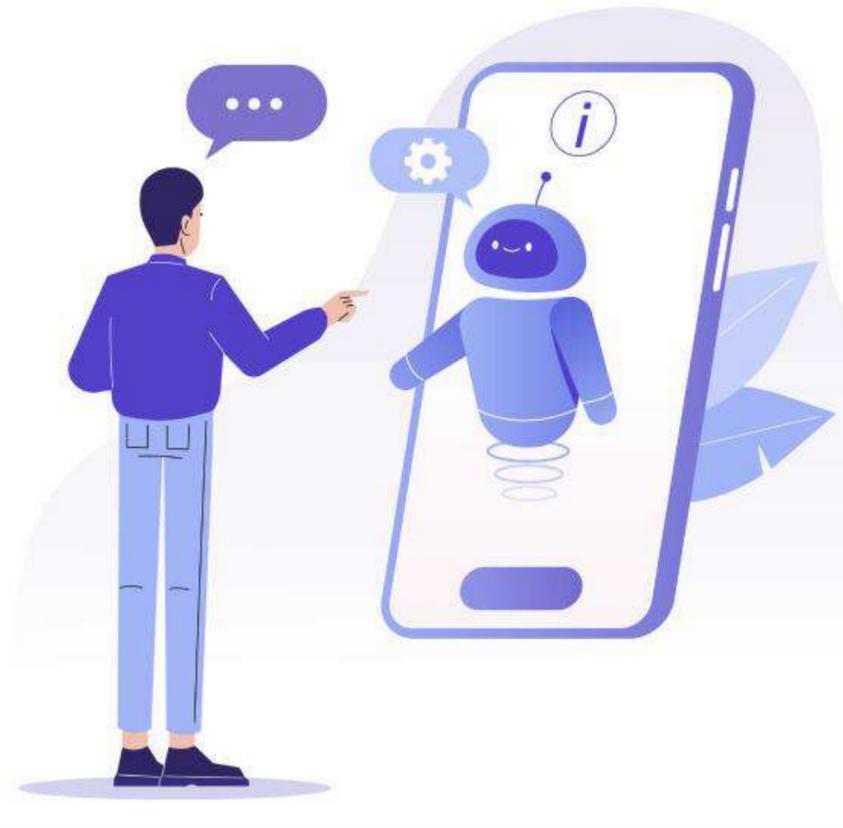
10年以上の長期スパンでは「AI×メタバース」で売上1000億円以上を目指し（\*2）、ミッション第4章「人類を物質世界から解放する（MU事業: Mind Uploading）（\*3）」へと進む。

\*1 内訳はAI事業90億円、HT事業10億円。メタバース事業は長期戦略のため3年内での目標は持たない。AI市場は不確定要素が多いため、数値の内訳・根拠を示しての中長期計画としてではなく、目標としての表明に留める。

AI事業の目標設定に至った背景と前提となる仮定条件は13-16頁参照。AI事業の先行投資額は2024年2月期連結営業利益が半減する程度（約3.5億円減）までを想定。

\*2 10年以上の長期スパンでは、メタバース事業が半分以上を占めると想定。目標の前提となる仮定条件は50-52頁参照。メタバース事業は10年±5年の長期戦略として、当面年間約2億円の先行投資を続ける。

\*3 Mind Uploading: 意識のアップロード。人の意識・精神をコンピュータに転送する技術。不老不死。



ChatGPTの登場によりAIを取り巻く環境が大きく変化した今、AI事業をこれまでのキャッシュカウから脱却させ、新たなスターを作り上げるタイミングが到来。

短中期の目標値として、AI事業は今後3年間で前期売上30億円から90億円への成長を目指す\*。この売上成長を達成するために人材拡充・マーケティング・設備等に対し積極的投資を行う。売上構成においてはこれまでの中心であったSaaSプロダクト開発・販売に新たな柱として受託開発を追加することにより、顧客定着率が安定した固定売上と案件規模の大きい変動売상을両立させ高成長を作り上げる。

今後もAI市場環境は短期間に著しい変化を伴い、様々な規制が入る可能性もあるが、AI市場が縮小することは考え難いため様々な変化に柔軟に対応できる組織構築を行い短中期成長を成し遂げる。

\*AI市場は不確定要素が多いため、数値の内訳・根拠を示しての中長期計画としてではなく、目標としての表明に留める。



ChatGPTの登場により世界のビジネス環境が大きく変化し、各企業が積極的にAIの活用を模索するというトレンドが鮮明になってきた。

この競争の激しいAI市場における当社のポジションを確立するために前期1年間、プロダクト投下や顧客の課題調査等様々な試行を重ねた結果、製薬業界を始めとした業界特化型の「専門文書AI」の需要が高いことを確信することができた。

また、多くの企業がAIを導入すること自体をテーマに置いてしまい導入効果を明確に認識できていない事象が多発している中、企業が実務で本当に使えるAIを昨年開発し、導入効果を確実に顧客に提供できた実績も当社のAI市場における方向性の正しさを確信する一つとなった。

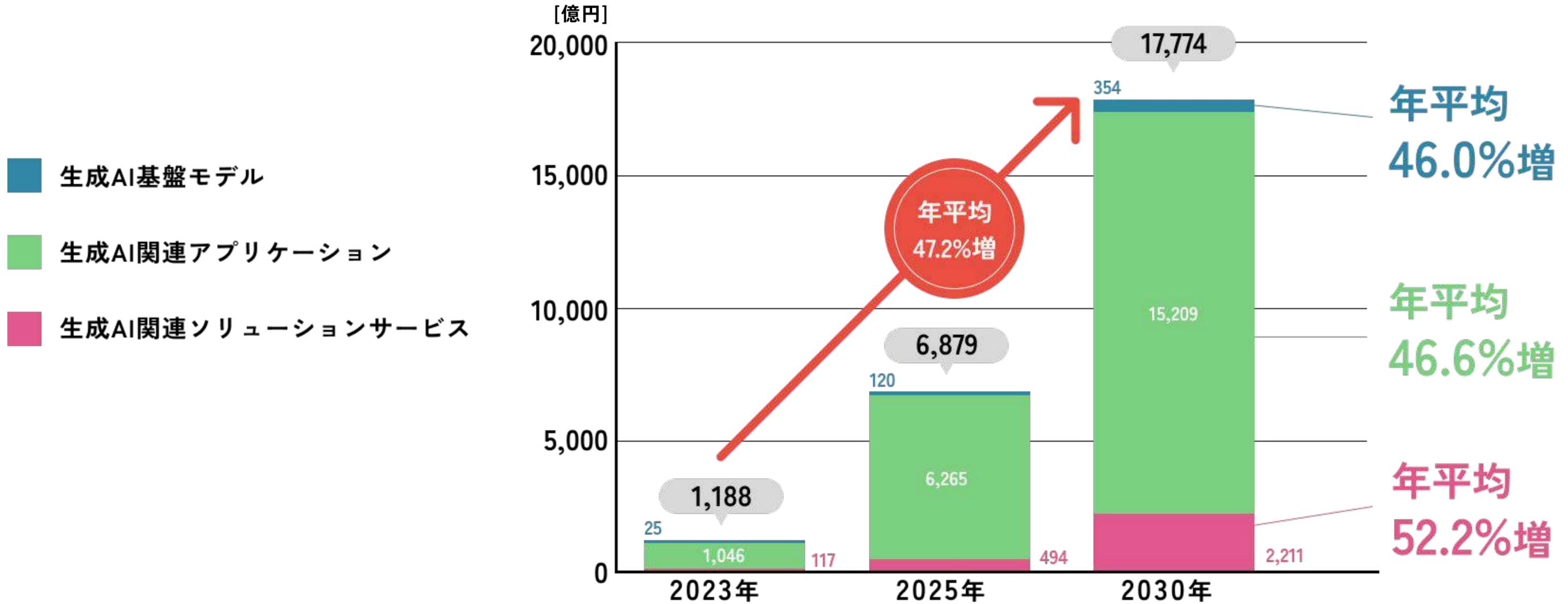
これらの活動にともなって着実に商談件数も増加し（9頁参照）、当社が成長に確信を持てる状況になったと判断したため、目標を発表することとした。

# 中期目標達成の前提となる仮定条件

日本国内におけるAI市場規模は2023年1,188億円から2030年1兆7,774億円と年平均47.2%の成長が見通されている（16頁参照）。

この市場成長に対し、7年間で30億（年平均成長率41.17%）のプロダクトへと成長した「AI翻訳」と同様に「専門文書AI」で複数の強いプロダクトを開発すると同時に受託開発案件を更に増やすことによってAI事業の成長（年平均成長率44.2%）を目指す。

## 生成AI市場の需要額見直し



出典：JEITA発行『注目分野に関する動向調査2023』



# 目次

01 第2四半期決算サマリー

02 成長戦略 **全体**

03 成長戦略 **AI事業**

04 専門文書におけるAI化

ラクヤクAI

四季報AI

ELLA

05 長期成長戦略 **メタバース**

06 AI × メタバース **ワールドの生成から体験まで**

07 2025年2月期 業績予想

IBM T事業（AI翻訳）で培った

**6000**社

の顧客基盤



「Metareal AIプロジェクト」を通して

深化させてきた  
専門文書におけるAI化技術

顧客基盤を活用して、  
生成AIをシームレスに提供する  
**準備が整った。**

# AI翻訳で成功した差別化

「業種特化の専門文書」への絞り込みを生成AIでも行う

世間のほとんどのAIは  
ChatGPTのような汎用のAI

## Google翻訳等の一般的なAI翻訳との違い

ポジショニングが違う

一般

汎用 (One fits all)

当社

業種特化の専門文書の翻訳  
(2000分野) に細かく対応



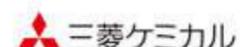
# AI翻訳導入6000社を生成AI事業成長の基盤とする

## 導入企業の割合 (日経225選定企業)

医薬・化学・食品分野



86%

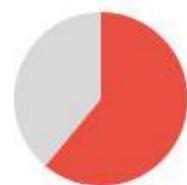


AsahiKASEI



etc.

電気・機械・精密機器分野



61%

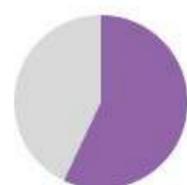
OLYMPUS

RICOH

FE 富士電機

etc.

鉄鋼/金属/非金属・繊維分野



57%

住友電工

三菱マテリアル

TEIJIN

etc.

## ※主な導入企業 (敬称略)

医薬	エーザイ、協和キリン、塩野義製薬、住友ファーマ、第一三共、中外製薬、武田薬品工業、沢井製薬、田辺三菱製薬、サノフィ、大塚製薬、日本新薬、科研製薬、ロート製薬、久光製薬、生化学工業、栄研化学、バイエル薬品、日本イーライリリー、アステラス製薬、グラクソ・スミスクライン、ロシュ・ダイアグノスティックス、アラガン・ジャパン、他
化学・食品	キリン、宝HD、日本ハム、日本たばこ産業、日東電工、日産化学工業、信越化学工業、信越ポリマー、住友化学、資生堂、旭化成、ニチレイ、三菱ケミカル、JSP、ADEKA、ポラテクノ、他
電気機器	ヒロセ電機、NEC、オムロン、京セラ、JVCケンウッド、シャープ、東芝、日本電産サンキョー、パイオニア、日立製作所、富士通ゼネラルエレクトロニクス、古河電気工業、三菱電機、村田製作所、富士フイルム、他
機械	IHI、川崎重工業、島津製作所、住友重機械工業、ダイキン工業、椿本チエイン、日機装、日立造船、三菱重工機械システム、他
精密機器	オリンパス、シチズン時計、コニカミノルタ、テルモ、ニコン、住友精密工業、HOYA、他
繊維	東洋紡、帝人、東レ、ナイガイ、他
輸送機器	日産自動車、日野自動車、本田技研工業、三菱自動車、マツダ、他

## 1 分野毎の専門用語の 正しさが求められる

(例：製薬CMC分野: identification ×同定 ○確認試験: description ×記述 ○性状)

## 2 参考文書（業界ガイドライン等）との用語・表現の整合性チェック

(例：新薬申請文書: ICHガイドライン)

## 3 過去翻訳（類似文書）との用語・表現の整合性チェック

(例：類似薬品の過去申請文書)

### 専門分野対応

2000分野専門用語と  
業界毎ガイドライン収録

例：新薬申請文書・ICHガイドライン

### 整合性チェック

参考文書

ガイドラインや過去文書等との整合性を  
チェックするための編集ツール

文書の量が大量にあるのが特徴



## 製薬

新薬承認申請資料  
等



## 製造

製品取扱説明書  
等



## 特許

特許明細書  
等



## 金融

有価証券報告書  
等



## 法務

契約書  
等

1

## 各種分野での専門文書を扱う実ニーズと顧客基盤

製薬、製造、金融、法務等、各種分野の専門文書を扱う  
実際のニーズを持つ顧客6000社の基盤

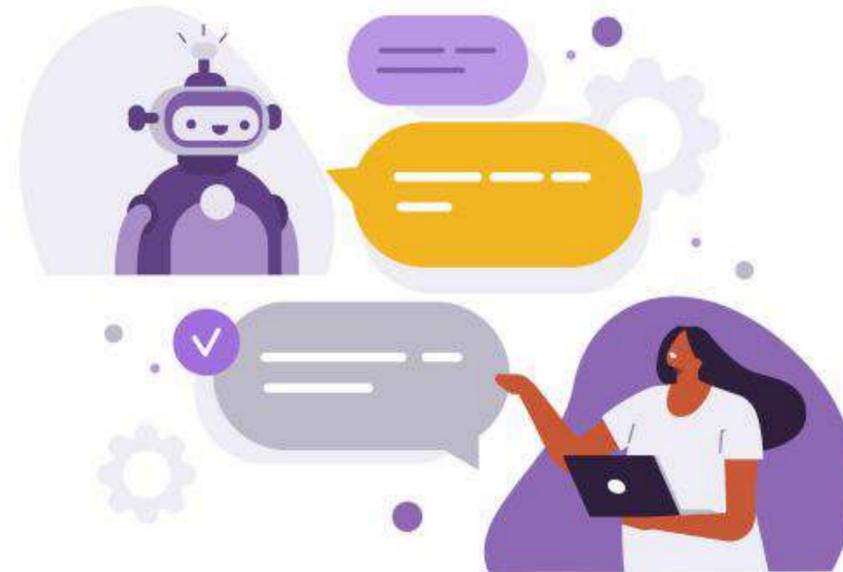
2

## 顧客企業が自社の専門文書を既に登録している

生成AIビジネスにおける最大の難関＝顧客側での  
自社データの整理が既にできている状態

# 「翻訳」から「文書作成」全般のAIへ

「T-400」のルール・統計ベースのアルゴリズムをすべて生成AIに切り替える



## 「翻訳」と「文書作成」全般の共通点

整合性チェック（参考文書や過去文書との整合性）に  
大変な手間と労力がかかるのが大きなペイン

## 情報表示から対話型へ

整合性チェック画面では コックピット計器のように各種情報を表示



「Microsoft Word」のコメント機能で専門家とやり取りするように  
AIと対話しながら



T-400において、  
生成 AI 翻訳による  
業種・分野ごとの対応が可能になった

T-400の文書作成全般AI化  
バージョンをリリース



# 目次

01 第2四半期決算サマリー

02 成長戦略 **全体**

03 成長戦略 **AI事業**

04 専門文書におけるAI化

**ラクヤクAI**

**四季報AI**

**ELLA**

05 長期成長戦略 **メタバース**

06 AI × メタバース **ワールドの生成から体験まで**

07 2025年2月期 業績予想

「Metareal AI」  
プロジェクトを通して  
深化させてきた  
**専門文書におけるAI化**

# 専門文書AI

によるDX推進事業への集中

医薬

製造

法務

特許

金融

等 分野ごとに必要となる

# ドキュメントマネジメント

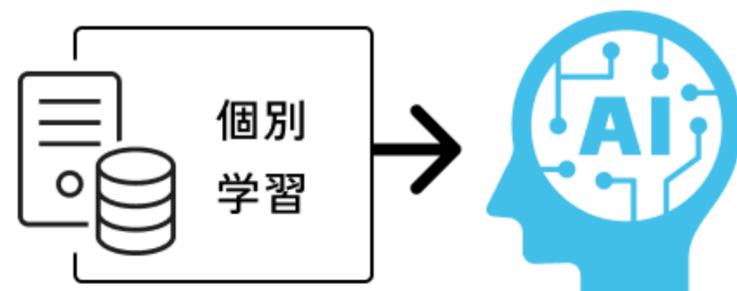
# × AI

# ロゼッタは何故、生成AIを用いた専門文書AIサービスを構築できるのか

AI自動翻訳と生成AIのベースとなるアーキテクチャは同じである

## 今までの「自然言語処理モデル」

少量のデータで個別タスクを学習



教師データをディープラーニング



AI自動翻訳における自然言語処理モデル

# Transformer

## GPTなどの「大規模言語モデル (LLM\*)」 \*LLM = Large Language Models

分散表現とセルフアテンションで、同時に複数タスクを処理



- ・大規模データ
- ・計算量の大規模化
- ・パラメータ数の大規模化

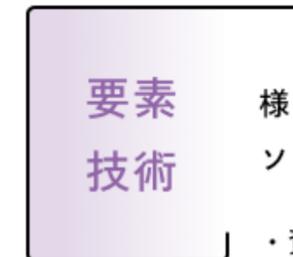
人間に近い流暢な会話や  
高精度な処理の実現

LLM (大規模言語モデル)

# Transformer



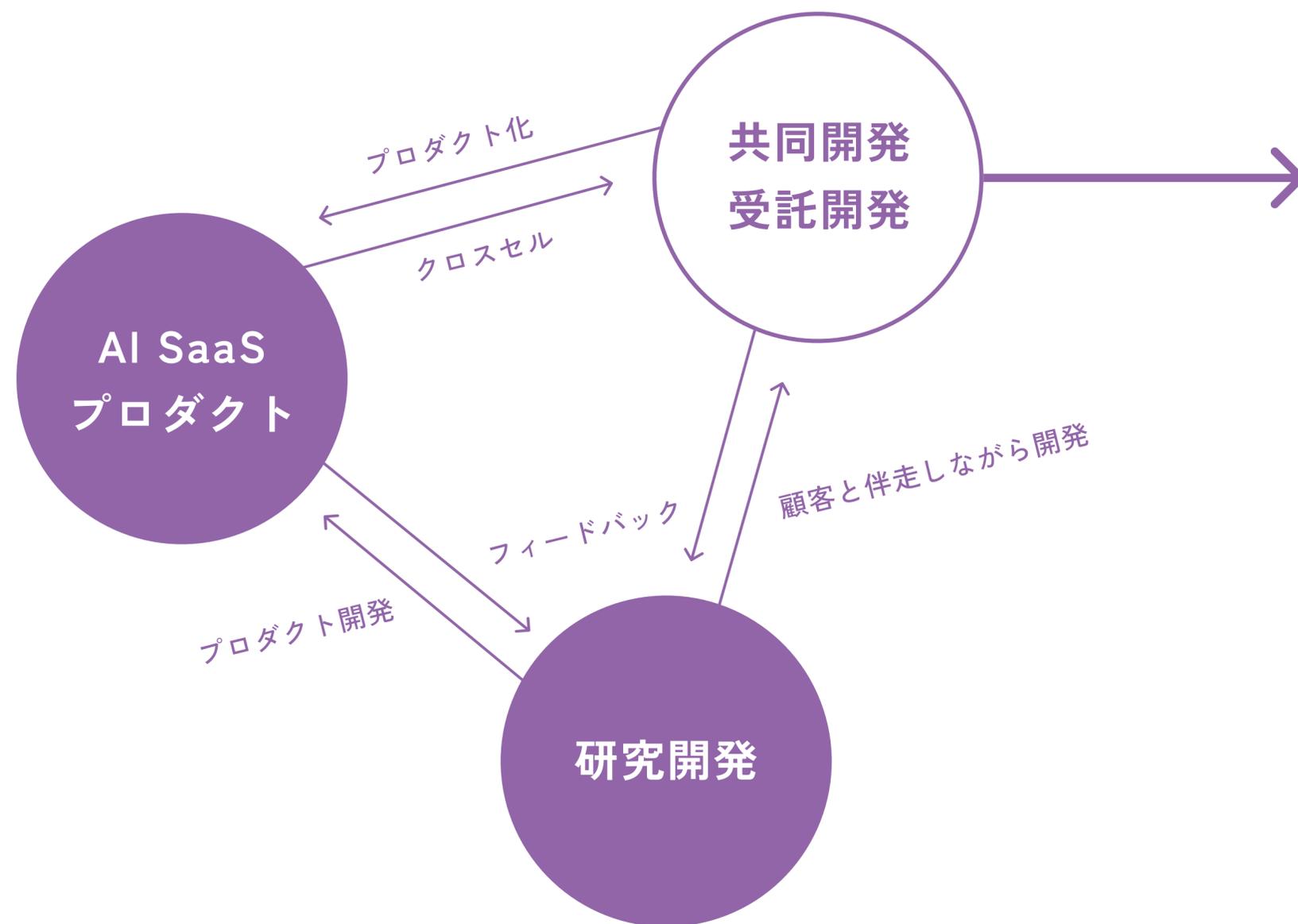
個別の学習データを  
- Fine tuning  
- Embedding



- 様々な生成AI  
ソリューションの開発
- ・資料生成AI
  - ・文章校正AI
  - ・文書要約AI
  - ・大容量プロンプトAI
  - ・顧客要望に応じたAI
  - ・オンプレ環境でのAI運用構築 等

AI自動翻訳の開発においてモデルを作り続けてきたロゼッタだからこそ生成AIを事業化することが可能

顧客の求める品質を追求する開発



## 専門文書AI

- 業種や顧客に特化した生成AIツール
- 文書作成や文書チェックにフォーカス
- 完全カスタマイズで業種や顧客特有の課題にアプローチ



AI自動翻訳と同じように  
生成AIサービスも顧客の求める品質を  
追求して事業成長を実現

# 生成AI関連の開発における当社の強み

モデル開発からフロントエンド（営業・サポート）まで一気通貫で対応

<p>1 LLMの開発 (大規模言語モデル)</p>	<p><b>LLM（大規模言語モデル）の自社開発が可能</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・膨大なデータセットと、精度の高いカスタムエンジンやLLMのベースモデルを開発する技術を保有</li><li>・お客様のセキュリティポリシーに応じたLLMの選定・ご提案が可能</li></ul>	
<p>2 オンプレAIの ロゼッタ</p>	<p><b>LLMを自社開発できるため、オンプレ環境における生成AIサービスの提供が可能</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本国内やお客様の社内という閉域に物理的サーバを用意しLLMを置くことが可能</li><li>・AI自動翻訳における「オンプレ型国内サーバー」で膨大な顧客データを安全に取り扱ってきた実績</li></ul>	
<p>3 高度な AI開発技術</p>	<p><b>ロゼッタ開発チームの高度な技術</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・AIが最適な答えを返すように「RAG」と呼ばれるフレームワークでハルシネーションを抑制</li><li>・CoTプロンプティング技術において複数のプロンプトを組み合わせ、複雑な結果を抽出することが可能</li></ul>	
<p>4 スピード</p>	<p><b>決断と実行におけるメタリアルグループの圧倒的なスピード</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生成AIサービス事業開始の2023年4月から約4か月間で、多くの製品を開発・リリースした実績</li><li>・スピードが早い故に、他社に先んじて膨大な知見を蓄積</li></ul>	

- Metareal AI プロジェクトの経緯解説
- 専門文書AI
  - ラクヤクAI
  - 四季報AI/API
  - ゲーム特化型AI翻訳エンジン「ELLA」
    - AI事業創出について
  - 生成AI技術群
    - 基盤技術 LLM2
    - 関連技術 整合性チェッカー、オンプレ音声認識
- JellyBeans.ai

# Metareal AI プロジェクトの経緯解説



昨年度Q1に立ち上げられた「Metareal AI プロジェクト」は、当初、汎用的なAIプラットフォームの開発を目指していたが、当社のT-400事業の知見と融合することで、専門文書AIという明確な成功戦略を見出すに至った。この転換点において、開発上の焦点はプラットフォームの開発から、専門文書AIを支える基盤技術の開発へと移行し、その技術群が実際のソリューション提供に生かされる体制を確立している。

専門文書AIは、各企業が抱える深い課題に寄り添い、その企業特有の、特に文書に関連するニーズに応じたソリューションを提供することを目的としており、まず製薬分野における「ラクヤクAI」事業が開始された。現在では、他業種にも応用範囲を拡大し、新たに「ドキュサポ」事業を展開している。

さらに、顧客企業が保有するアセットを活用し、それぞれの企業独自のAI事業を創出する取り組みが、「四季報AI」や「ゲーム特化型AI翻訳エンジン『ELLA』」などに結実し、一定の成果を上げている。この「AI事業創出サービス」は、当社の深いAIの知見とそれを事業化する実行力という強みを象徴する独自のソリューションとして、今後さらなる成長を期待している。

製薬企業の審査文書や論文の整合性確認を強力にサポートする文書処理AIを開発。製薬業界特有の膨大な管理負荷を大幅に削減し、生産性向上を実現します。

## LLM×製薬 高精度整合性検証

### 製薬業界に特化

製薬業界に特化したサービスのため、創薬における文書作成など製薬業界特有の業務に対応。御社内のデータはもちろん、業界の専門用語やルールにも対応し、正確なアウトプットを実現します。

### 御社専用のセキュアな生成AI環境

御社専用の生成AI環境をご提供。業界の基礎情報に加え社内の膨大な資料やデータを活用することで、御社内の知見を統合的に分析し集約されたアウトプットをセキュアな環境で実現します。

### 正確かつスピーディなアウトプット

これまでにかかっていた大量の時間とリソースを大幅に削減しながら、膨大なデータを元にした正確なアウトプットを実現します。

当社の整合性チェッカーの技術を応用し、LLMと製薬業界知見を融合。審査文書や論文に特化した高精度の整合性検証を実現し、大量の文書を高速処理します。従来手作業で行われてきた審査文書や論文の整合性確認を自動化することで、研究開発や薬事申請といったコア業務により多くのリソースを割くことが可能になります。

「整合性チェッカー」事業活用例：  
審査文書・論文等の膨大な整合性チェックを自動化

## ラクヤクAI

### 「ラクヤクAI」とは

社内のあらゆる文書やデータ、社外で公開されている論文やルールを活用して、文書や資料の自動生成、文書チェック、モニタリングなどを可能にし、圧倒的な業務スピードの改善を実現するシステムです。

#### 文書・資料の自動生成

治験関連文書や薬剤プロモーション資料などを自動生成します。

#### 整合性チェック

作成した資料のクオリティチェックを実施。ヒューマンエラーを無くし作業時間を大幅に軽減します。

#### 講演内容モニタリング

講演資料や講演音声のモニタリングを行い、適用外表現を自動でチェックします。

#### 薬剤情報やナレッジの検索

薬剤の情報やナレッジを調べると検索結果として返します。

メタリアル・グループ、国立がん研究センターと共同研究契約を締結。  
生成AIを用いた治験関連文書の自動作成ツールの開発を始動



## 中村 健一

国立がん研究センター中央病院  
国際開発部門 部門長  
同 臨床研究支援部門  
臨床研究支援責任者



がん研究

早期段階の医師主導治験から大規模な多施設共同臨床試験まで様々な種類の臨床試験の実務経験を持ち、臨床試験の運営と薬事規制の専門家として多数の国際プロジェクトに携わっています。

### 【国立がん研究センター中央病院 国際開発部門長 中村健一先生】

国立がん研究センターは、株式会社ロゼッタと共同研究契約を締結し、生成AIを活用した治験関連文書作成の自動化プロジェクトを開始することとなりました。治験業務には膨大な量の文書作成が必要であり、その作業には多くの時間とリソースが割かれています。特にCSR（総括報告書）をはじめとする治験関連文書の作成とチェックには高い精度が求められ、非常に多くのコストとリソースを要しています。今回のプロジェクトでは、国立がん研究センター中央病院の豊富な治験ノウハウを活かし、安価で迅速かつ高品質な治験関連文書の自動作成モデルを構築することを目指します。

現在、ドラッグ・ロスが深刻な社会問題となっており、新薬の開発には多大な時間とコストがかかっています。日本が新薬開発の主要な国であり続けるためには、治験プロセスの効率化とコストダウンが必要であり、その点でもこのプロジェクトは重要です。また、この取り組みを成功させるためには規制当局や製薬企業との連携が不可欠です。治験関連文書の正確性と信頼性を確保するために、必要に応じて規制当局や製薬企業と協議しながら進めていきます。

「ラクヤクAI」ニュースリリース(2024.7.30抜粋)

## 「ラクヤクAI」事業グロースプロジェクトチーム

製薬業界専門家

石川 博



新薬開発・申請業務など製薬業界歴30年以上。  
元サントリーの医薬事業部の一期生。  
(株)ロゼッタ ファーマ・テック・トランスレーター

1979年にサントリー(株)の医薬事業の一期生として入社。製剤研究から上市申請まで幅広い業務に携わる。サンリズム、ビオプテン、ビオガンマ、ハンプ、ファロムなどの上市に貢献。その後、第一三共を経て、2021年ロゼッタに入社。第一三共時代にロゼッタのAI精度に惚れ込み、製薬業向け「ラクヤクAI」のサービス・CS向上を推進。

営業責任者

古谷 祐一



元GMOグループ子会社CEO。6000社導入のAI自動翻訳「T-400」を始め、AIサービスの営業スペシャリスト。(株)ロゼッタ 取締役「ラクヤクAI」事業責任者、営業責任者

GMO子会社代表取締役社長（GMOスピード翻訳）、Xtraの代表取締役社長を経て、2019年ロゼッタに入社。アライアンス部長・執行役員を経て、取締役。日本翻訳連盟理事、アジア太平洋機械翻訳協会監事など業界団体要職も歴任。現在は製薬業向け「ラクヤクAI」の事業責任者。製薬企業に導入を推進。複数社の大手製薬企業に導入成功。

開発責任者

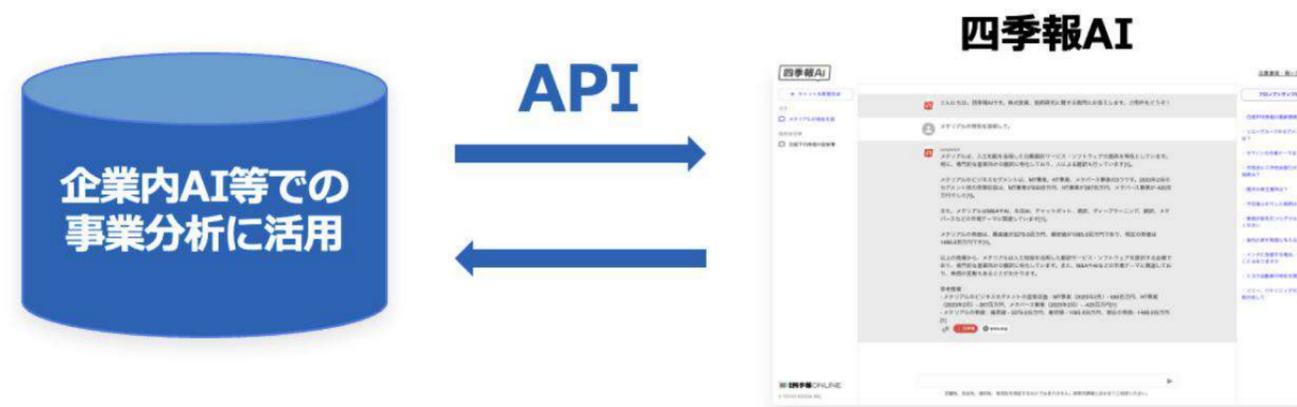
米倉 豪志



AI開発者。東洋経済新報社と共同開発「四季報AI」、ゲーム特化型AI翻訳エンジン「ELLA」など業種特化AIを数々開発。  
(株)メタリアル 取締役CTO 開発部門責任者

2000年にデータ圧縮技術の発明・開発・特許取得。株式会社メディアドゥで国内最大級のモバイル検索サービスの設計。株式会社オルツでデジタルクローン開発に従事。2022年メタリアル取締役CTO就任。金融、製薬、アニメゲームなど、業種特化AIを数々開発。製薬業向け「ラクヤクAI」を含め、技術開発全体の責任者を務める。

四季報AIのAPI提供で革新的な事業分析を実現。生成AIとの連携で、企業情報活用の新時代へ。



当社と東洋経済新報社様が共同開発した「四季報AI」がAPI接続可能になりました。

企業の社内生成AIによる事業分析に信頼性の高い市場データを統合し、事業戦略立案の精度向上と競争力強化を実現します。

## 四季報AI API 外部接続開始

東洋経済新報社と提携し、「四季報AI」へのAPI接続提供を開始。

四季報AIの膨大な企業情報と市場情報のAIによる分析結果を利用可能になりました。生成AIによる事業分析に市場データを統合し、事業分析に大きな革新をもたらします。

## 市場データ分析 × 専門文書AI

当社専門文書AIとの知識融合により、業界特有の知見も活用した多角的な分析を実現。

専門文書AIソリューションが、AI活用による企業経営の高度化を強力に支援します。

事業成長を加速させ、競争力強化に貢献することで顧客企業のDXを推進し、新たな価値創造を支えます。

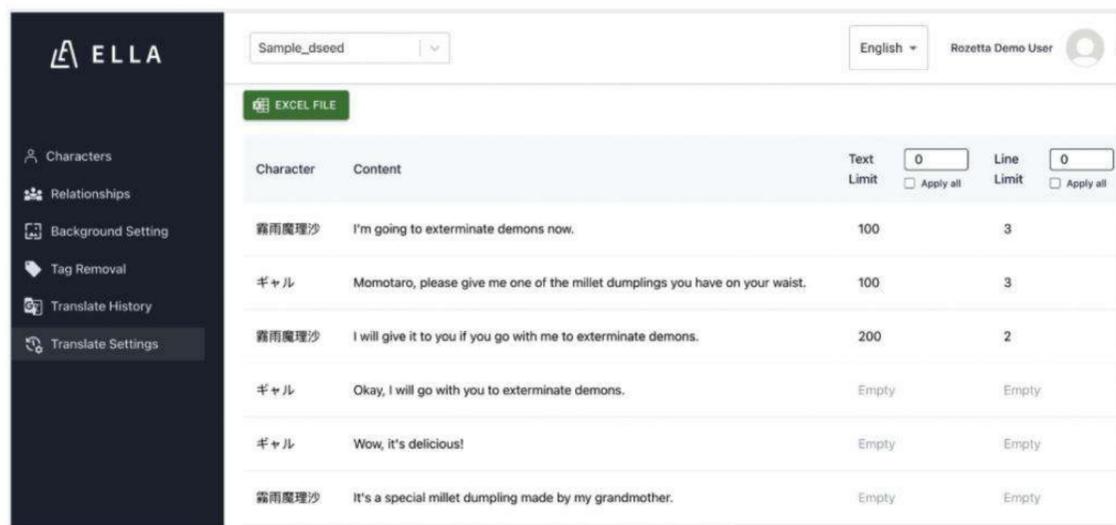
# 専門文書AI - ゲーム特化型AI翻訳エンジン「ELLA」



## ゲーム特化型AI翻訳エンジン「ELLA」を (株)デジタルハーツ様と共同開発

(株)デジタルハーツ様とロゼッタで共同開発した新AI翻訳エンジンは、  
長年のAI翻訳開発経験と生成AIを融合したクリエイティブ翻訳AI。

参考記事リンク：<https://rozetta-square.jp/news/7258/>



### 実際のキャラ翻訳例

英語原文：ゾンビ

I look forward to working with you in the future.

日本語訳文

ウォレ、ウォマエと..ガッ..これからも..モオン.仕事..ヴァッ..楽しみ..ンッ!



日本語原文：魔王

これからもよろしくお願いします。

英語訳文

Bow to the future where you shall grovel at my feet, for our fates are yet to be entwined.



ELLAは、(株)デジタルハーツ様が長年のゲーム翻訳において培ってきた翻訳ノウハウと、ロゼッタ社のAI翻訳及びデジタルクローン生成技術を融合。文脈に応じた語彙選択や話し方の変化を再現します。従来の機械翻訳では不可能と思われていたクリエイティブ分野で、キャラクターの性格や感情を反映した翻訳を実現しました。

### (株)デジタルハーツ様の翻訳担当者の声

「圧倒的なスピードで従来の機械翻訳を超えた、キャラクターの性格や感情を反映した翻訳を実現したことに感動しています！」



# 専門文書AI - ゲーム特化型AI翻訳エンジン「ELLA」



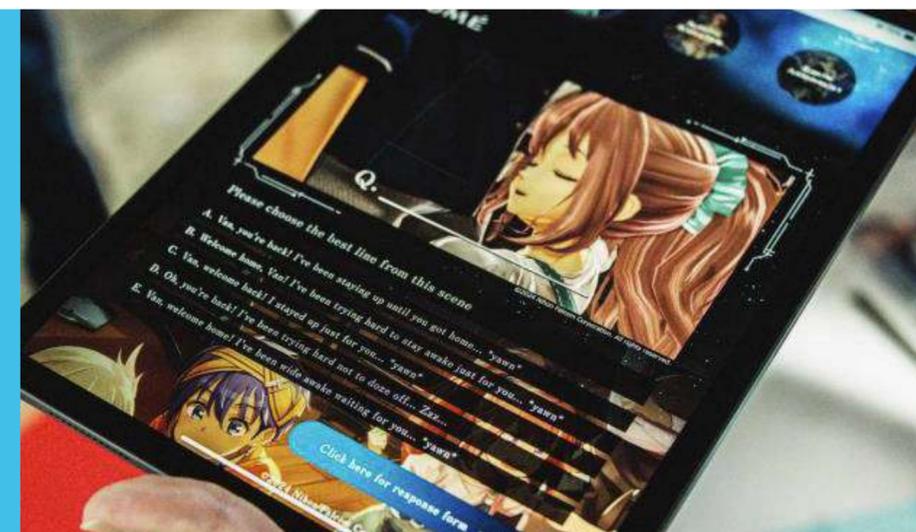
当社と(株)デジタルハーツ様で共同開発した「ELLA」が、東京ゲームショウ2024でイベント展開



「4 Gamer.net」の主催イベントに、日本ファルコム様の大人気ストーリーRPG『英雄伝説 界の軌跡 -Farewell, O Zemuria-』と共に「ELLA」が参画

2024.9.20 (株)デジタルハーツ様プレスリリースより一部引用・抜粋  
東京ゲームショウ2024の4 Gamer.net企画イベントにおいてデジタルハーツのAI翻訳エンジン「ELLA」が『界の軌跡』に挑戦！～抽選で50名様に『界の軌跡』非売品ポスターをプレゼント～ -株式会社デジタルハーツ (digitalhearts.com)

東京ゲームショウ2024での  
ゲーム特化型AI翻訳実演



(株) デジタルハーツ様  
によるELLA紹介PV



[https://www.digitalhearts.com/wp-content/uploads/ELLA\\_JP.mp4](https://www.digitalhearts.com/wp-content/uploads/ELLA_JP.mp4)



# ELLA

Expressive Localization and Linguistic AI

「ELLA」がグローバル展開を開始  
2024年は世界各国の3展示会に出展

# 97万 6,739人

合計展示会場延べ来場者数

ChinaJoy 2024  
中国/上海 **36万7,000人**

Gamescom 2024  
ドイツ/ケルン **33万5,000人**

東京ゲームショウ2024  
日本/東京 **27万4,739人**

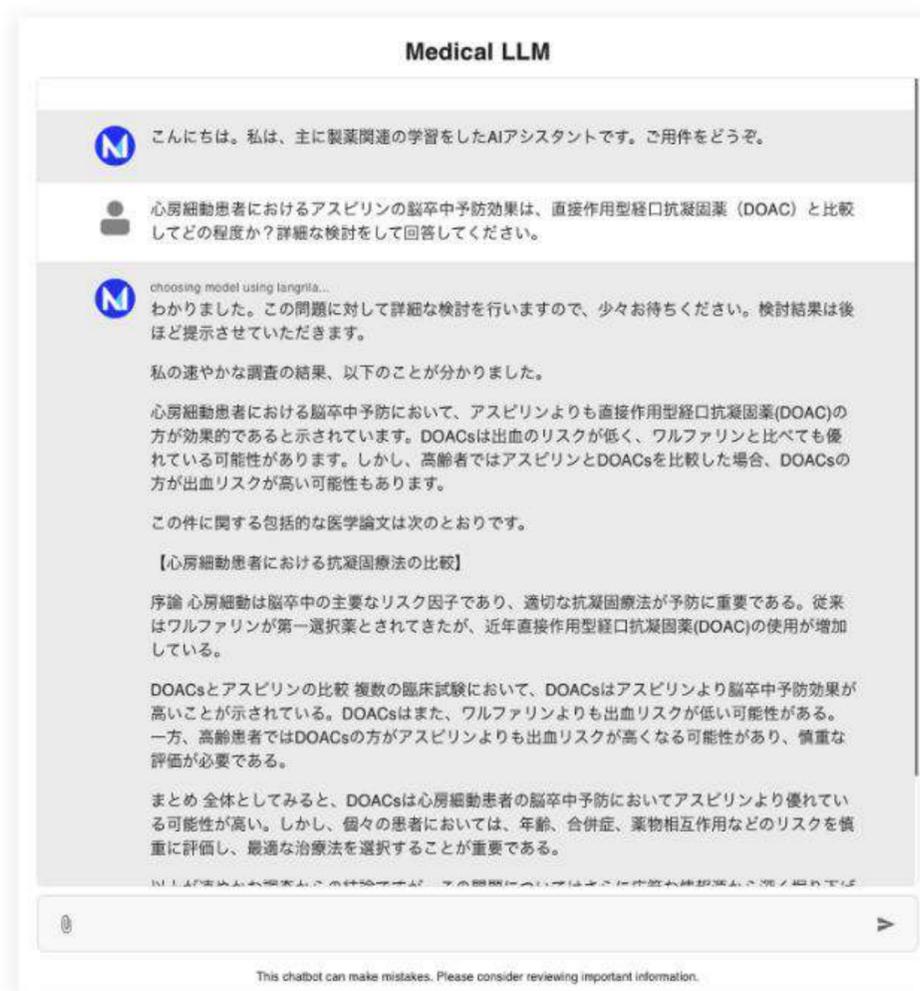


# AIプロフェッショナル集団と事業実務チームによる「AI事業創出」

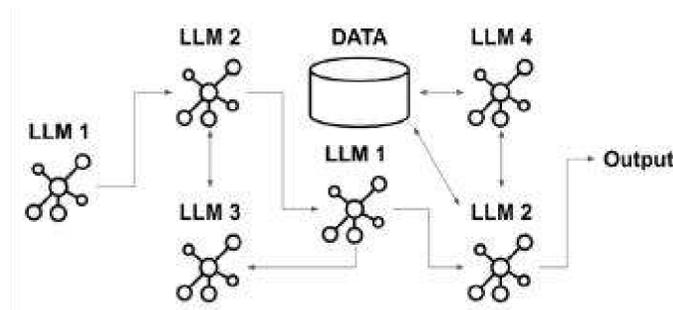


当社の革新的アプローチは、AIの導入を単なる内部プロセスの最適化にとどめず、顧客企業のビジネスモデルを根本から変革する点に特徴がある。我々は、顧客企業の製品やサービスにAIを組み込むことで、エンドユーザーの体験がいかに劇的に向上するかを具体的に提案する。つまり、当社は顧客企業を「AIを利用する側」から「AIを提供する側」へと転換させることを目指し、顧客企業自身が新たなAI製品やサービスを市場に投入できるよう全面的に支援する。この画期的な転換により、顧客企業は既存事業の枠を超え、AIを核とした新規事業を立ち上げる機会を獲得する。これは潜在的に大きな成長機会となり、顧客企業のビジネスを根本から再構築し、AI時代における競争優位性を確立する強力な手段として機能する。当社のこのアプローチは、顧客企業にとって単なるAI導入支援を超えた、事業変革のカタリストとしての役割を果たしているのである。

## Metareal AI LLM 2 - 複数モデルの連携で実現する、 企業の課題解決に特化した次世代AIオーケストレーションシステム



## Metareal AI LLM 2



異なるアーキテクチャや学習データを持つ多様なLLMをAPIやプロトコルを介して動的に連携させることで各モデルの入出力や内部状態をリアルタイムで監視・制御、タスクに応じて最適なモデルの組み合わせとパラメータ調整を行います。単一モデルでは困難な複雑なタスクを、複数モデルの協調動作で高精度に処理し、転移学習や fine-tuningにより、企業の業務に特化したドメイン知識を各モデルに効率的に統合します。

「Metareal AI LLM 2」は、複数LLMの連携と業界特化型チューニングにより、  
専門文書AIとの親和性を高めた次世代AIオーケストレーションシステムです。

Metareal AI LLM 2は、AIの企業活用を大きく前進させるシステムです。複数LLMの連携により、単体モデルの限界を超えた高度な課題解決を実現。さらに、業界特化型チューニングにより、専門文書AIとの親和性を高めることで、企業の業務に直結したAI活用を可能にします。製薬や市場分析から始まり、順次他業界へ展開することで、あらゆる企業のDXを加速させるでしょう。当社の取り組みは、AIが企業の競争力の源泉となる未来を切り拓きます。

# 生成AI技術群 - 関連技術 整合性チェッカー



当社の整合性チェッカーは、LLMと顧客課題解決力を融合。  
膨大な文書管理に苦慮する企業の作業効率を飛躍的に向上し、  
文書管理のDXを加速します。

## 高速整合性検証 作業効率化

特定文書と参照文書群の整合性を高速検証する「整合性チェッカー」を開発。  
製薬、建築、士業など、膨大な文書管理に悩む企業の課題解決を目指しました。  
整合性チェッカーは、LLM活用と共に、当社の顧客課題解決力を発揮して実現。  
先進技術と現場知見の融合により、複数人で数日かかる作業を最短1分で完了。並列処理で更なる効率化を図ります。



## 文書管理を変革しDX推進

文書管理のDXを加速する画期的な技術により、膨大な時間とコストを費やしてきた整合性検証を自動化します。作業効率の飛躍的向上、コスト削減と人的ミス防止、大規模検証の実現により、文書管理の質を格段に向上します。  
確認前処理の用途でも大きな成果が期待でき、企業のDXを強力に推進。  
文書管理のあり方を大きく変革する重要な技術となります。

AIの力で煩雑な書類チェックから解放。  
AIが拓く、文書管理DXの新時代へ。

### 検証状況の出力

検証情報

損害額、補償範囲/期間/内容については、両テキストに具体的な記載がないため、これらの項目に関する拡張は示されていません。合意管轄に関しては、両テキストともに東京地方裁判所を専属的合意管轄裁判所としているため、拡張は示されていません。

# ステップ4

参照データ一覧

- Reference path 1: 利用規約.pdf
- Reference path 2: general\_agreement\_sample.pdf
- Reference path 3: 利用規約.pdf
- Reference path 4: general\_agreement\_sample.pdf

\*第5条 管轄 本覚書に関して生じた一切の紛争については、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とする。

- Explanation: # ステップ1  
矛盾なし

# ステップ2  
抵触なし

# ステップ3  
損害額、補償範囲/期間/内容については、両テキストに具体的な記載がないため、これらの項目に関する拡張は示されていません。合意管轄に関しては、両テキストともに東京地方裁判

### 検査対象PDF

自動翻訳 T-400 グループ企業利用に関する覚書

株式会社〇〇〇〇（以下、「甲」という）と株式会社××××（以下、「乙」という）は、甲が2020年3月18日に利用申請をした乙が運営する自動翻訳サービス「T-400」（以下、「本サービス」という）の利用について、以下の通り覚書（以下、「本覚書」という）を締結する。

第1条 目的  
本覚書は、本サービスの利用規約の規定にかかわらず、乙が、本サービスの契約主体である甲に対し、株式会社〇〇〇〇による本サービスの利用を認めることを目的とする。

第2条 利用規約  
本サービスの利用規約は、株式会社〇〇〇〇による利用についても適用されるものとする。

第3条 効力発生日  
1. 本覚書は2024年3月31日より効力を発するものとする。  
2. 前項にかかわらず、甲および乙は、相手方に対し、3か月前に書面による通知をすることにより、本覚書を解除することができる。

第4条 損害賠償  
乙は、甲または株式会社〇〇〇〇が本覚書に違反した場合、甲に対し、当該違反により生じた損害について損害賠償請求することができるものとする。

第5条 管轄  
本覚書に関して生じた一切の紛争については、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とする。

第6条 準拠法  
本覚書は、日本法に準拠し、日本法に従って解釈されるものとする。

オンプレ音声認識が開く、安全なAI活用の扉。機密情報も安心、ニーズに合わせて柔軟に。

当社のオンプレ音声認識エンジンは、ネットワーク接続なしでローカルPCのみで高精度認識を実現。企業ニーズに合わせたカスタマイズで、機密情報を扱う会議での活用を可能にします。

参考記事リンク：<https://www.youtube.com/watch?v=rj0v7ZRsqVI>

## 安全・高精度のオンプレ音声認識

当社の高度な音声認識技術をベースに、ネットワーク接続を必要としないローカルPCで動作する設計を実現。PC単体での高精度認識に加え、企業ごとの用語などにもカスタマイズ可能。機密情報を扱う環境での安全かつ柔軟な活用を可能にしました。

## 機密会議にも、AIによるDXを

オンプレ音声認識エンジンは、AIの活用範囲を大きく広げる革新的な技術として、情報漏洩リスクから活用が難しかった機密情報を扱う会議などでの音声認識を可能にし、議事録作成の効率化や会議の生産性向上に寄与。さらに企業ニーズに合わせた高いカスタマイズ性がAIの柔軟な活用を促進し、音声入力インターフェイスの革新によりPCでの文書作成やデータ入力の利便性を大きく向上。ビジネスのDXを加速する重要な一手となります。



AIが自律的に構築する、超ニッチニーズに応えるハイパーローカルシステム  
 専門文書AIとは対極の、AIファースト事業のロールモデルの構築を目指します。

## 専門文書AI

企業の具体的課題にカスタム



専門文書AIは、2B向けに特化した徹底的なカスタムメイドサービス。各企業の業務や扱う文書の特性を深く理解し、AIモデルを最適化。これにより、企業ごとに異なる複雑な課題に、柔軟かつ効果的に対応。

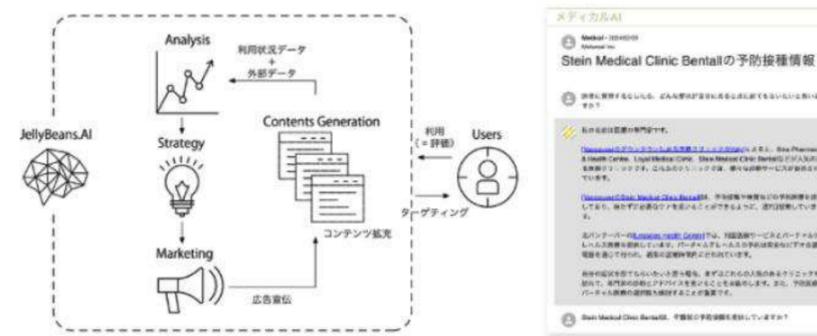
### 2B特化 / 徹底したカスタムメイド

専門文書AIは、企業の現場の具体的課題に対し、当社専門チームによる徹底的なカスタマイズで対応。これにより、企業の業務に直結した高度なAI活用を実現し、大きな価値を提供します。



AIが自律的にバリューチェーン全体を構築・運用し、超ニッチな2Cニーズに応える、実験的システム

バリューチェーンの自律構築



JellyBeans.aiは、AIが自律的にマーケティング施策を策定し、一人一人のニーズにジャストフィットするサービス提供を目指す革新的なシステムです。大規模言語モデルと強化学習により個人の潜在ニーズと嗜好を深く理解し、AIエージェントが商品やサービスの訴求点、価格設定、プロモーション手法を個人ごとに最適化。さらに、ニーズに合わせた新商品・サービス開発も自動化し、超ニッチ領域にも効率的に対応。真のパーソナライゼーションを実現し、顧客満足と新市場開拓を図ります。

JellyBeans.aiは、Metareal AI LLM 2による複数の大規模言語モデルの組み合わせを活用。個人のニーズを動的に理解し、最適なサービスを自動生成。マルチエージェントにより、サービスの作成から提供までのバリューチェーン全体をAIが自律的に運用します。継続的な学習と適応により、常に進化し、新たなニーズにも柔軟に対応。この革新的なアプローチにより、人的労力を最小限に抑えつつ、超ニッチなニーズにも応える状態を目指します。

### 2C特化の超ローカライズ / サービスほぼすべてをAIが運用&生成

JellyBeans.aiは、2C向けのハイパーローカルサービスをAIが自動的に運用・生成するシステム。世界中の個人のバラバラなニーズをAIが察知し、人的労力なしで超ニッチなニーズにも対応。AIによる自律的なサービス提供を実現します。



# 目次

01 第2四半期決算サマリー

02 成長戦略 **全体**

03 成長戦略 **AI事業**

04 専門文書におけるAI化

ラクヤクAI

四季報AI

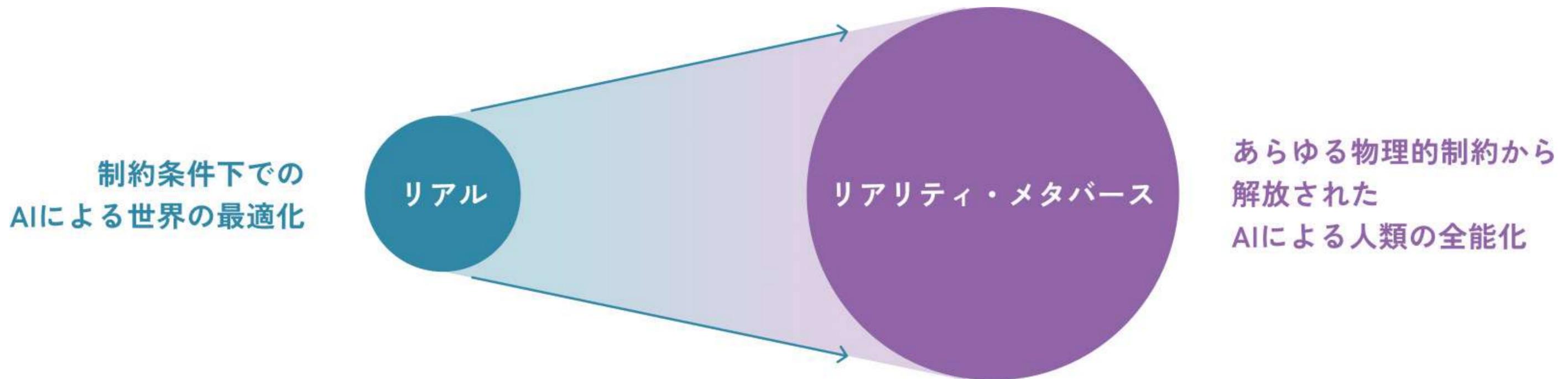
ELLA

05 **長期成長戦略** **メタバース**

06 AI × **メタバース** **ワールドの生成から体験まで**

07 2025年2月期 業績予想

# メタバースを長期戦略として残す理由



AI翻訳によって人々を言語的ハンディキャップから解放し、生成AIによって単純作業の苦役から解放したのち、当社がなすべきミッションは、身体機能と物理的制約からの解放。

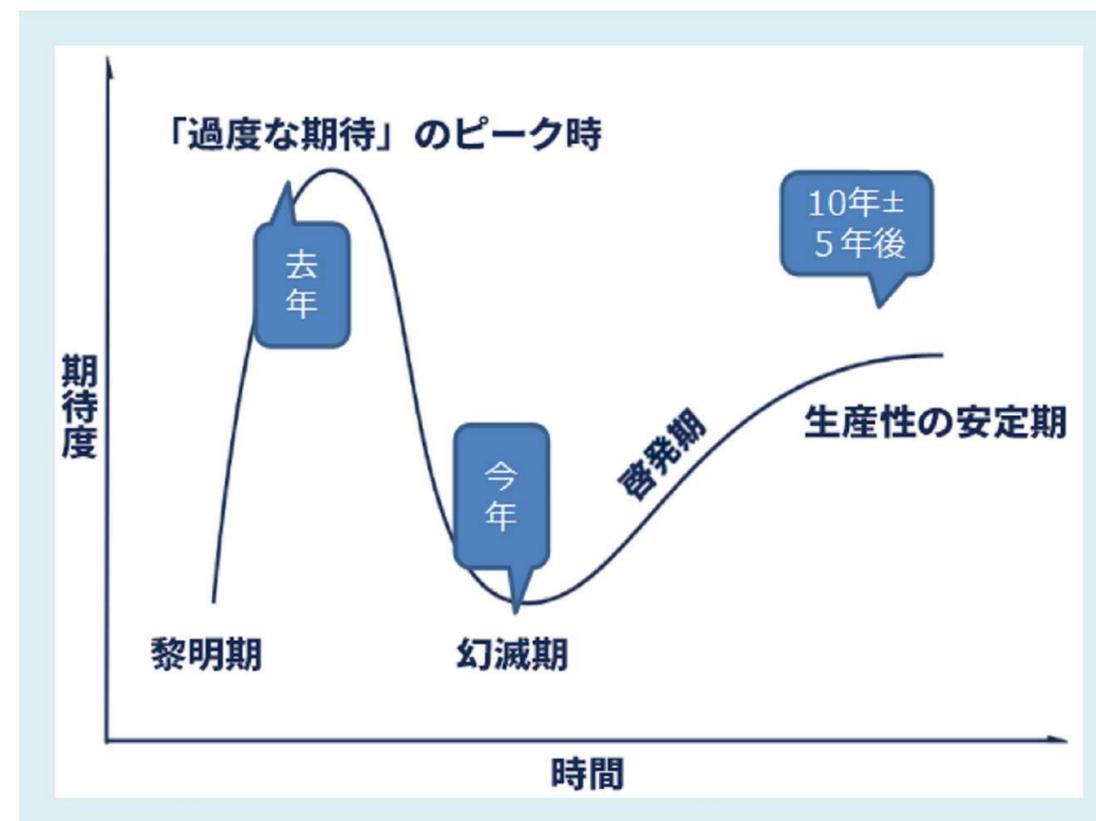
当社がこれまでに、そして今この時も、全力で取り組むAI技術は、人類にメタバースという新たな世界が解放された時、真の力を発揮する。

様々な制約に縛られたリアル世界においてさえ、これほどまでに人類に力を与えるAI技術を、すべての制約から解放されたメタバース世界と融合させ、人類に真の創造の翼を与えることが当社の目標。

# 当社が想定しているメタバース市場の進行

新しい技術が市場に導入されてから成熟に至るまでの進行過程を視覚化したフレームワークとしてハイプ・サイクルがある（図）。5つのフェーズから成り立つ。

- 1 技術トリガー** 新技術が市場に登場し、メディアの注目を集める初期段階。しかしこの時点では実用化はまだ遠い。
- 2 過度な期待** 初期の成功が報道され、一部の早期採用者が新技術を試す。しかし、多くの場合、この段階では技術は過大評価され、実際の有用性は限定的。
- 3 幻滅の谷** 技術が期待を満たさないと広く認識され、メディアの関心が減退。しかし、この段階で技術の開発と改善が続けられる。
- 4 啓蒙の斜面** 技術の実用性と商業的価値が徐々に理解され、2次、3次の世代の製品が開発される。
- 5 生産性の高原** 技術が主流になり、その価値が広く認識され、実際の市場適用が行われる。



インターネットやスマホもかつて同じ道をたどった。「過度な期待」の後「幻滅期」が来たが、いまでは完全に基幹的なパラダイムを塗り替えた。

現在当社は、メタバースについては去年が過度な期待で、今年が幻滅期になると想定している。そして10年±5年後にはインターネットやスマホと同じく、メタバースが当たりまえの世界になっているという前提のうえ、その時に開花することを目論んでメタバース事業を長期成長戦略として位置付けている。

# 当社が想定しているメタバース市場の長期推移

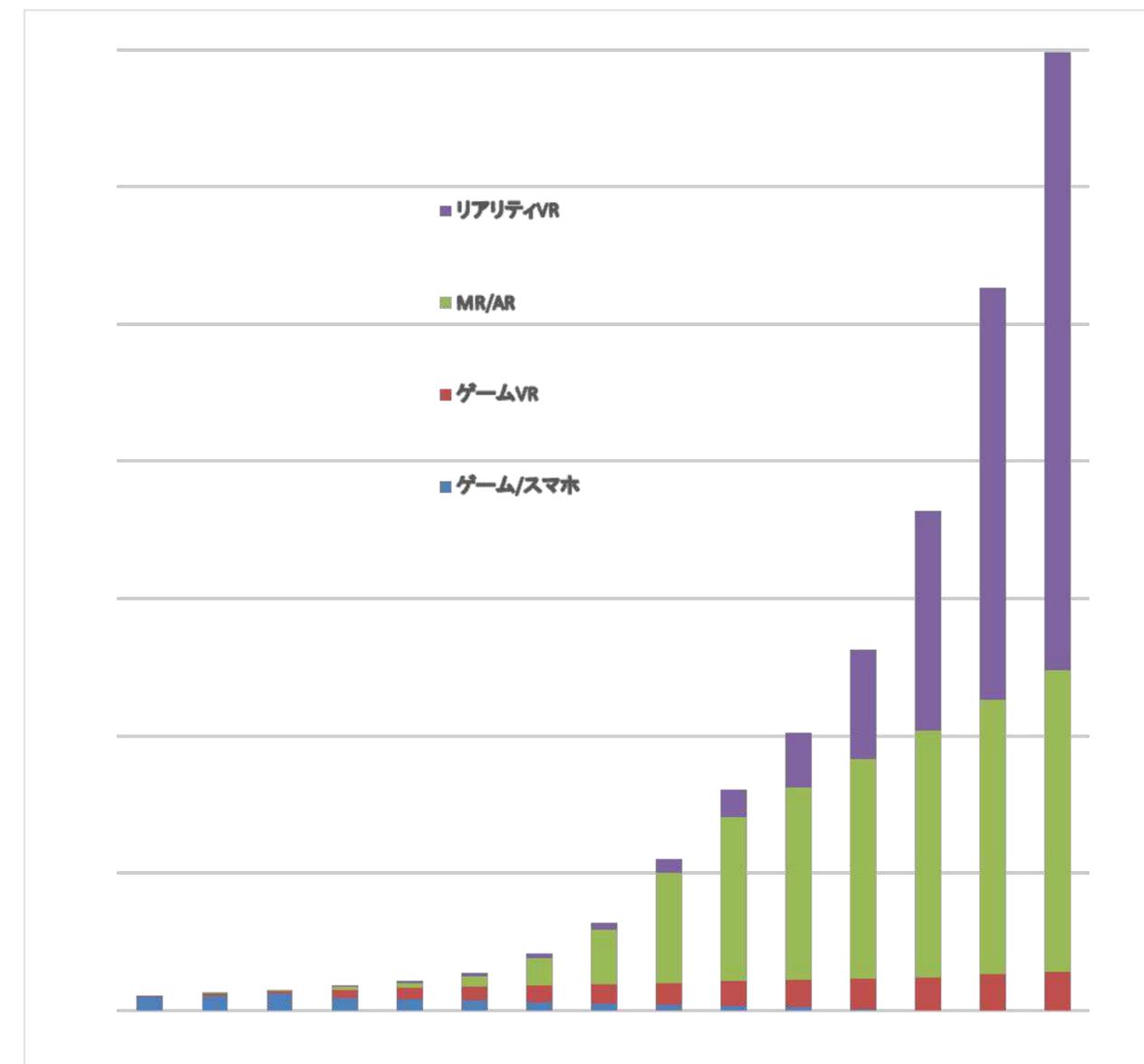
イメージ



現在当社が長期成長戦略を考える際に前提としているメタバース市場の長期推移仮説(右図)。

- 1 現在のメタバース市場は、ほぼゲーム機やスマホ上で行うゲームで占められている。
- 2 次はVR上でのゲーム市場が急激に伸びる。
- 3 そしてウェアラブルグラスの登場とともにゲーム以外のリアリティーニーズのMR・AR（拡張現実）市場が緩やかに立ち上がっていく。
- 4 最後に、ハードウェアと通信回線の進歩が十分になった時点でリアリティーニーズのVRの時代がやってくる。

当社のリアリティー・メタバースは④に狙いを定めている。10年以上スパンの長期戦略としてリアリティーメタバースの領域を先回りし、メタバース市場100兆円のシェア0.1%、1000億円の売上を目指す。



\*グラフは推移イメージです。特定の金額、年次を予測するものではありません。



メタバースは今後世界で最も急成長を遂げる分野と言われ、市場規模予測調査の例として、2028年までに100兆円規模（960億米ドル：\*1）、2030年までに80兆円規模（715億米ドル：\*2）となる等とされる。当社のこれまでの事業が主に日本市場限定であったのに対して、メタバース事業の対象は世界市場となる。

\*1： EMERGEN RESEARCH Metaverse Market

<https://www.emergenresearch.com/industry-report/metaverse-market>

\*2： Market Research Future® Metaverse Market Research Report

<https://www.marketresearchfuture.com/reports/metaverse-market-10744>

## 第1の特徴

### リアリティ・メタバース

世間一般のメタバースがアンリアル

(ゲーム・CG・アニメ)が中心であるのに対して 当社はリアル(実生活・実写)をコンセプトとしてポジショニングしている。

「メタバース=アンリアル」と  
「AR=リアル」のブリッジ。

## 第2の特徴

### メタバーサー構想

ワールドを作成したりイベントを開いたりする  
ユーザー(メタバーサー)による  
自律駆動のメタバース。

## 第3の特徴

### AI x メタバース

当社のメタバースは「リアリティ・メタバース」が特徴。

メタバーサーがワールドを自律的に生成しイベントや交流を行うプラットフォーム。

「どこでもドア」 <https://dokodemodoors.com/>

これを支えるのが、メタバースワールド自動生成等のAI技術群となる。



# 目次

01 第2四半期決算サマリー

02 成長戦略 **全体**

03 成長戦略 **AI事業**

04 専門文書におけるAI化

ラクヤクAI

四季報AI

ELLA

05 長期成長戦略 **メタバース**

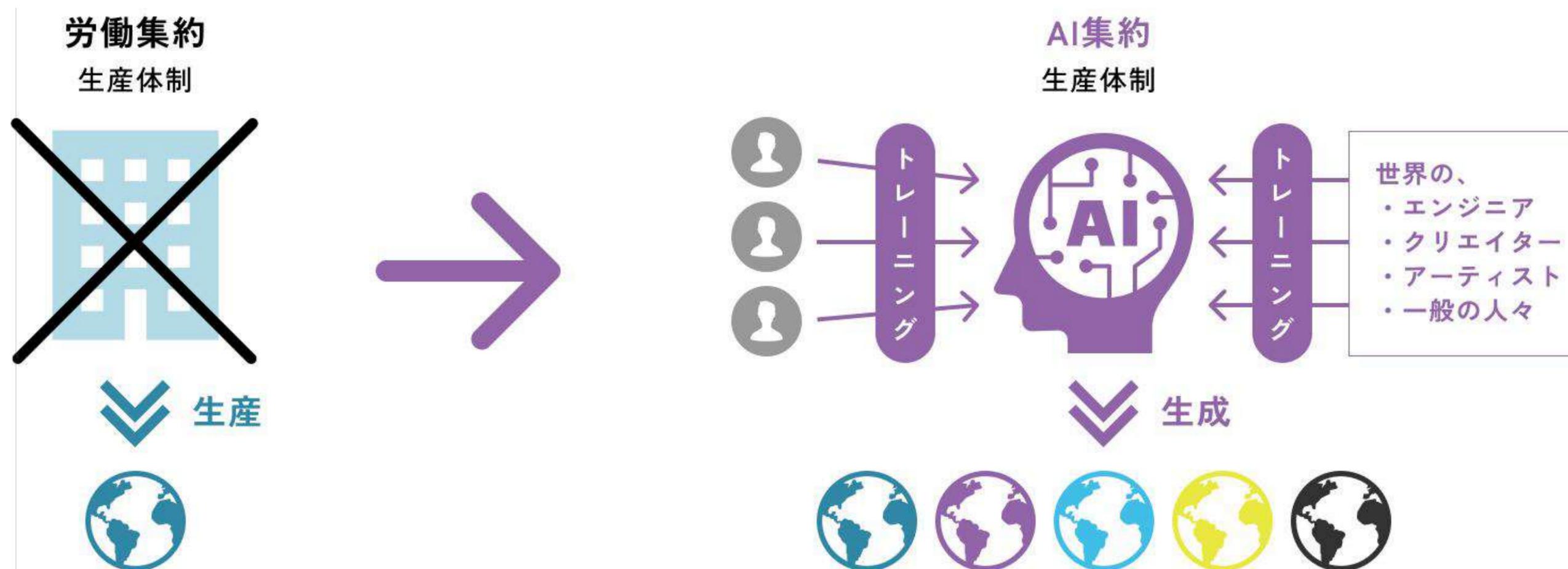
06 **AI × メタバース** **ワールドの生成から体験まで**

07 2025年2月期 業績予想

# AI集約的ワールド生産体制

当社はAI集約的なメタバースワールド生成を採用。世界のエンジニア、クリエイター、アーティストたちはAIのトレーニングを通して、また、一般の人々はAIを利用して、それぞれの創造性を発揮する。

労働集約的な作業は不要になり、膨大かつ多様なワールドがAIにより自動生成される。





## Genesis

AIを用いたメタバースワールドを自動生成する生成AI。  
当社を象徴するコア技術に位置付けられる。

[https://www.youtube.com/watch?v=qgG5Owht\\_fk](https://www.youtube.com/watch?v=qgG5Owht_fk)



## Dimensions

2次元の360度映像を3次元化し、  
さらにその中を自由に動き回れるようにするためのAI技術。

[https://www.youtube.com/watch?v=IYA1kaM\\_yP8](https://www.youtube.com/watch?v=IYA1kaM_yP8)

## GenesisとDimensionsの統合

「Genesis」で生成された2次元の世界空間を、  
「Dimensions」で3次元化し、ワールド内を移動可能とすることに成功。  
さらに、ワールドとワールドをシームレスに繋げる技術を開発することで、  
無限に移動可能な広大な「リアリティ・メタバース」を創出する。

<https://www.youtube.com/watch?v=2uduNpZ-1kU>

## 自動生成ワールドを3Dモデルとしてエクスポート

「Genesis」と「Dimensions」によって生成された3次元世界空間を、  
3Dオブジェクトファイルとして外部にエクスポートする。  
AIと人間のクリエイターが共同で、より高度なワールドを構築することが可能となる。

<https://www.youtube.com/watch?v=6J0ocusWDtY>



## 2D映像をメタバースに転生 『Diveverse』

『DiveVerse』発表。膨大な2D映像資産をメタバースに転生。  
SF映画の傑作「Metropolis」を先端技術による没入型作品の第一弾として公開。

<https://youtu.be/0LKvzrKL0hM>

## MATRIXでは2024年3月より 次世代の3D空間構成技術「Gaussian Splatting」を利用した 受託開発ソリューション提供を開始した。

従来手法のデジタルツイン構築としては「3D レーザースキャン」「平面キャプチャ画像の組み合わせ」が存在したが、前者は手間とコスト、後者は視点・視野に制限があるなどの課題があった。

そこでMATRIXは、最先端のGaussian Splatting技術を活用して、特別な機材や追加の作業が不要な、スマートフォンで撮影した動画からAIがリアルなデジタルツインを自動で生成するソリューションを開発した。

**当技術は、建設、不動産、製造業など産業向けに提供を開始。**

# 受託開発ソリューション ユースケース



これまでMATRIXは実写の360度映像をベースにしたメタバース空間共有プラットフォーム「どこでもドア」の開発と運営を通じて、法人からメタバースに関する様々な相談や問い合わせを受けてきた。その内容を考慮し以下のユースケースを想定。



## 不動産物件の内見

遠隔地からまるで現地で住宅を内見しているようなVR内見



## 山間部の橋梁建設の完成形を確認

動画から生成したVR空間内に図面から生成した橋を合成、完成後の橋の上を体験



## プラント設計のスパール図レビュー

プラント設計の段階で事前に2D図面からVR空間内でリアルな完成形を確認する



## 工場内機械設置の事前確認

工場内に機械を設置する場合の位置などをリアルな状態で事前に確認できる

## GaussianVR

ガウシアンVR（不動産内見向け）

これまでの内見用のVRは、360度カメラで外観や物件内を撮影し編集という手間とコストのかかるもの。

物件数が増えるほど作業量も増えるため、内見VRを取り入れたいと思っている不動産業の方でも導入を躊躇っているのが現状。

MATRIXの不動産内見VRは、スマホで撮影した物件の動画を入力するだけでAIが瞬時にVR空間を生成。

完成したVR空間ではまるで実際に物件の室内を歩いているかのような、リアルな内見を体験することができる。



# 搭載機能



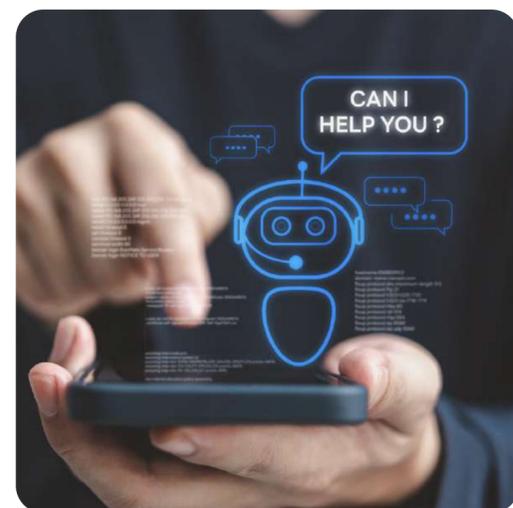
受託開発ソリューションで生成したVR空間には以下の機能を搭載。

顧客からの要望によっては機能の追加も検討予定。



## ウォークスルー

メタバース空間内を自由に歩行



## 会話/Chat (議事録)

空間内での会話を全て議事録にして保存



## PC画面共有

PC画面を表示して補足説明



## マルチプレイ

複数人（顧客と販売員）が空間に一緒に入る



## AI音声自動翻訳

メタバース内の会話を全て自動音声翻訳



# 目次

01 第2四半期決算サマリー

02 成長戦略 全体

03 成長戦略 AI事業

04 専門文書におけるAI化

ラクヤクAI

四季報AI

ELLA

05 長期成長戦略 メタバース

06 AI × メタバース ワールドの生成から体験まで

07 2025年2月期 業績予想

# 2025年2月期連結業績予想



## ◆連結業績予想

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
2025年2月期	4,640	11.1	412	△ 51.7

## ◆セグメント別業績予想

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
2025年2月期				
AI事業	3,430	12.2	670	△ 28.4
HT事業	1,010	△ 9.6	120	△ 17.6
メタバース事業	200	-	△ 200	-
その他本社費等	-	-	△ 177	-

AI事業においては利益重視から成長重視へのシフトが想定より遅れたため、  
期首予想より売上が下方、利益が上方になる見通し

その他連結業績予想の修正の詳細につきましては、2024年10月15日公表の  
「連結業績予想の修正に関する お知らせ」を参照

- 本資料は、株式会社メタリアル業界動向及び事業内容について、株式会社メタリアルによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。
- 株式会社メタリアルの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、2024年10月15日現在において利用可能な情報に基づいて株式会社メタリアルによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。

本資料のお問合せ先  
株式会社メタリアル  
グループ管理本部  
メールでのお問合せ： [ir@metareal.jp](mailto:ir@metareal.jp)